

補聴器外来って？

当院では「補聴器相談外来」を設けて「聞こえのトレーニング」をサポートしています。補聴器相談

医、聴覚領域の認定資格を持った言語聴覚士、認定補聴器技能者の資格を持った補聴器業者 の3者が連携し、難聴の訴えがあった患者さんに対して補聴器の使用について検討します。

検査結果を分かりやすく説明し、補聴器の効果を知つてもらひながら、補聴器の使い方を丁寧に指導します。認知機能評価や聞こえの満足度など

を調べながら、必要に応じて聴覚リハビリテーションも行います。

また、試用期間が終わり購入された後も3～6ヶ月ペースで定期的に聴力検査を行います。年齢を重ねると聴力に変化がでやすいため、継続して通院しその時の聴力に応じた調整を行うことが重要です。この補聴器相談外来のアフターフォローは、補聴器を使用する上での大きなメリットといえます。



当院の補聴器相談外来では、

- 補聴器について正しく知つてもらう
- 専門家による適切な検査を受け、納得して装着してもらう
- 長期的に補聴器を正しく使用し、満足感を感じてもらう
- 必要に応じて周囲の協力が得られるようにサポートする

これらの点を前提に指導を進めています。
「聞こえ」でお困りの方は、気軽に相談にお越しください。



まずはかかりつけ医にご相談を

難聴の方や補聴器の調整にお困りの方は、まずかかりつけ医を受診してください。

医師より補聴器の使用が適切だと判断された場合、紹介状をお持ちのうえ、補聴器相談外来をご予約ください。

洛和会音羽病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

下記のフリーダイヤルからご予約ください

0120 (489) 300

月～金曜日：午前8時30分～午後5時
※土・日曜日、祝日、年末年始(12月30日～1月3日)を除く

らくわ健康教室 後援 京都市・京都市教育委員会

編集・発行／洛和会企画広報部門 TEL 075 (594) 8488

(ラ-25) 23.02 2,000 Ⓛ

補聴器を正しく知り、正しく使おう

— 補聴器相談外来を活用しよう —

難聴でお困りの方、聞こえが悪くなったご家族や友人はいらっしゃいませんか。そんな時、補聴器の使用が選択肢の一つに上がると思いますが、補聴器がどんなものかや、正しい使用法があまり知られていません。補聴器の重要性について説明しながら、洛和会音羽病院で行っている補聴器相談外来について紹介します。



医療や介護の
お役立ち情報を
専門家が解説します！



らくわ健康教室って？

らくわ健康教室は、一般の方を対象に、医療や介護の専門家が健康に役立つ情報を分かりやすく解説する無料の講演会です。会場での講演会（現在は休止中）に加えて、Webでの動画配信や紙面で病気の治療や予防、介護や健康保険・介護保険などについて発信しています。
(後援: 京都市・京都市教育委員会)

講 師
洛和会音羽病院
リハビリテーション部 副係長
まえ かわ ひろ ふみ
言語聴覚士 前川 大史

らくわヘルスケアシステム®
夢、そして誇り。この街で…

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院

補聴器の大切さ

日本補聴器工業会によると、国内には現在1,400万人の難聴者がいるといわれています。高齢化が進み、今後はさらに増えると予測されます。認知症の患者さんも増えていますが、認知症で一番予防可能なリスク要因は「難聴」だという研究結果が発表されています。補聴器は認知症予防のためにも重要です。

しかし、精密機械に慣れない高齢者の方にとって、使用方法を学ぶだけでも一苦労です。補聴器は片耳10~50万円程度しますが、使いこなせず家に放置してしまう方が多いのが現状です。



集音器と補聴器

補聴器は集音器と混同されがちですが、集音器は単に耳元で音を增幅するだけの既製品で、聴力に合わせて調整する医療機器である「補聴器」とは全く別の物です。

補聴器は聴力検査を行ったからといって、すぐ快適に使えるわけではありません。それは、聞こえの仕組みが関係しています。

らくわ健康教室Web版で動画配信中。

気になる健康情報をYouTubeにて毎月更新しています。
ぜひチャンネル登録を！

<http://www.rakuwa.or.jp/kenkoevent/rkk.html>



補聴器を正しく知ろう!

補聴器相談外来



補聴器の調整

補聴器を使うには、実際につけたてのトレーニングを行う期間が重要です。聴力検査を行い、不快と感じない音量から調整を始め、耳と脳を新しい音環境に慣れさせていきます。

2週間程度はできるかぎり常時装着し、新しい音環境に慣れてきた状態から徐々に音量を上げ、本人にとって必要十分な音量が耳に入るよう2~3ヶ月を目安に調整していきます。ニュースなど聞き取りやすいテレビ番組で言葉の聞き取りを意識するのも、効果的なトレーニングです。



聞こえの仕組み

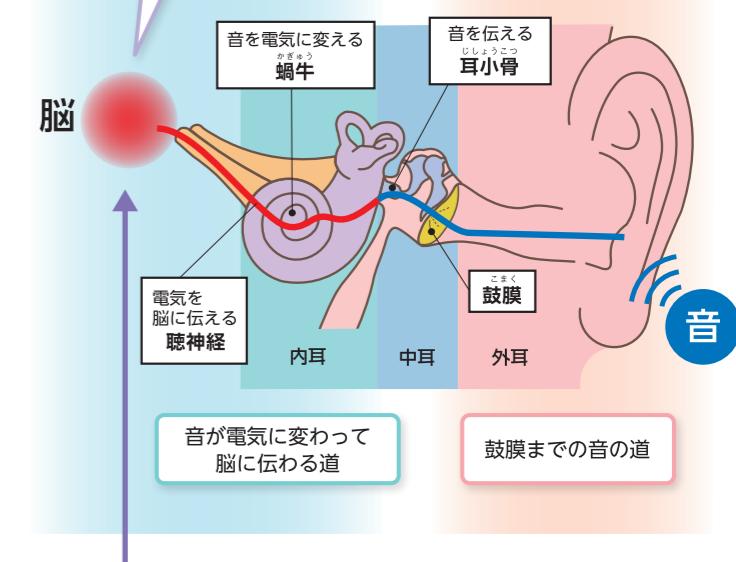
私たちは音を聞くとき、外からの音を内耳で電気信号に置き換えて脳に送っています。この電気信号をさらに言葉に置き換えて、会話しているのです。

しかし難聴の方は、脳への音の刺激が伝わりにくい状態に長期間置かれています。この状態で、聴力検査の結果だけを単純に反映した強大音を「ガツン」と耳に入れてしまうと、脳はそれを「過剰に大きい音」と受け止め不快感を持ってしまいます。

ボリュームの上げ下げが主な機能であったアナログ型補聴器の時代から進化し、現在の補聴器はたくさんの機能が詰まった小さなコンピューターのような精密機械になっています。

正常な聞こえ 脳へ音の刺激が正常に伝わる状態

難聴の聞こえ 脳へ音の刺激が弱い状態



難聴は、脳に伝わる電気が弱い状態。

「耳は脳へ音を伝える役割」で実際に聞いているのは「脳」です。

「難聴の脳」は、長い期間、音が伝わりにくい状態に慣れてしまっているのです。

